

1 題材名 「教室をデザインする」 — 「明かり」のデザイン 2 —

2 題材（単元・活動について）

本学級では、4月当初、各国からそれぞれの背景をもつ帰国児童が集まっていた為それぞれの背景を感じることができるような題材を考えていた。そこで、まずは、てつがくの授業をつかい、ゆっくりとお互いの背景を語り合った。子どもだけではなく、親子でてつがく対話も行なった。その中で、子どもや保護者から、「海外の学校では、ブレイクスルーできる、リラックスできる場があった。」という発言があり、自分達もそういった空間を作りたいとの提案があった。そこで、異質な他者との対話をくりかえし、「創造活動×図画工作×てつがく」のように、異教科を往還しながら、自分達の「教室空間」について、多角的に考えデザインしたいと考えた。（これまでのデザイン会議、決定、制作過程についての詳細は、1日目の話し合いの時間に紹介したい。）

今回は、「イサム・ノグチ」展の鑑賞がきっかけとなった、教室デザインの、「明かり」のデザインである。イサム・ノグチの背景と子どもたちの背景が重なった為、作品から作家の生き方を感じてほしいと考えた。この時の鑑賞では、どの作品もおもしろがっていた子どもたちだが、明かり（照明）のデザインのブースに来ると、その明かりの美しさにひきつけられ、長い時間鑑賞していた。その時にある子どもから「教室デザインで、明かりのデザインをしたい。」という提案があった。早速クラスに戻り、話合った結果、どの子も明かりをデザインしてみたいということで、新たに「明かり」のデザインを加えることになった。

しかし、子どもたちが配置し直した「リラックススペース（仮）」は窓側である為、その場に本当に必要なか？必要であれば、コンセプトに合い、その状況に適した「明かり」とは何かなどを、あらゆる面からの視点を踏まえてデザインさせたいと考えた。1月当初から、実際にリラックススペースに座り、光の差し具合や温かさを感じ、数値だけでなく、自分が感じたことを記録している（朝・昼・午後）。展覧会でみたような照明だけでなく、子どもたちには自然光を利用したものも提示し考えさせたい。その際に、今まで調査してきた事を、「リラックススペース」のイメージや状況と合わせてみていきたい。そして、自然光が差し込む窓側に設置することで変わる「明かり」のデザインについてさらに考えたい。

本授業は、1日目からの続きの授業になる。1日目にはデザインを決定する予定ではあるが、もしデザイン決定までいかなければ、2日目も続けて話し合いを行なう予定である。デザイン決定や制作を急がずに、自分達の教室の状況やコンセプトにしっかりと向き合って進めていきたい。

3 学習活動計画（本時：9時間目／全12時間）

- ・「イサム・ノグチ」展をふりかえる。 (1時間)
- ・「明かり」について、コンセプトや場を踏まえて考える。 (2時間)
- ・ゲストティーチャーからいくつかの照明を紹介してもらう。 (2時間)
- ・コンセプトや場に合った「明かり」をデザインする。（試作も含む） (3時間)
- ・決定した「明かり」のデザインを共同で制作する。 . . . 【本時】(4時間)

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

自分達が設定したコンセプトと、窓側のリラックススペースで感じたこと、また様々な照明の例を踏まえて、自分達の「明かり」をデザインする。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な例をみながら、自分達の状況に合わせたデザインを考える。 ・デザインを決定し、必要な素材を選び、作りながら考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当日は、実際の教室で授業が行なえない為、できるだけ教室の状況を思い出せるように、写真や映像等の資料を提示する。 ・デザインすることや素材を触りながらイメージを高めていくに時間をかけ、制作を急がせないこと。 ・作りながらデザインが変わっていく事も大切にする。